

## 2004年2月中間期の決算を発表

2004年2月中間期決算(単体)

	03年2月中間期 実績	期初計画	2004年2月中間期			2004年8月期(通期)	
			実績	前期比	計画比	予想	前期比
売上高 (売上比)	1,619 100.0%	1,765 100.0%	<b>1,807</b> 100.0%	+11.6%	+2.4%	<b>3,300</b> 100.0%	+9.4%
売上総利益 (売上比)	699 43.2%	818 46.3%	<b>858</b> 47.5%	+22.6% + 4.3p	+4.9%	<b>1,540</b> 46.7%	+14.3% + 2.0p
販管費 (売上比)	438 27.1%	461 26.1%	<b>461</b> 25.5%	+5.2% 1.6p	+0.1%	<b>941</b> 28.5%	+6.6% 0.8p
営業利益 (売上比)	261 16.1%	357 20.2%	<b>396</b> 22.0%	+51.9% + 5.9p	+11.1%	<b>599</b> 18.2%	+28.8% + 2.8p
経常利益 (売上比)	263 16.3%	359 20.3%	<b>396</b> 22.0%	+50.5% + 5.7p	+10.5%	<b>600</b> 18.2%	+27.7% + 2.6p
当期利益 (売上比)	112 7.0%	201 11.4%	<b>213</b> 11.8%	+88.6% + 4.8p	+6.0%	<b>320</b> 9.7%	+71.4% + 3.5p

### 【サマリー】 増収増益を達成

2004年2月中間期の単体売上高は前年同期比11.6%増の1,807億円、経常利益は同50.5%増の396億円と増収増益を達成することができました。売上高、経常利益ともに会社計画を上回ることができました。既存店売上高が前年同期比2.3%増を記録し、上期としては3期ぶりのプラスとなり、売上高には安定感が始めています。売上回復の原動力はウィメンズを中心とする商品力の強化にあります。女性のお客様を中心として客数が増加基調にあり、ウィメンズ商品の売上高構成比も34.9%(インナー含む)と4年前と比較すると12ポイントも上回る水準に達しています。中間期では粗利益率を大幅に改善することができました。これは前期持ち越し在庫が大きく減少したことに加え、売上高も総じて好調に推移した結果です。

下期につきましても、引き続き商品力の強化、販売力の強化を図り、売上高3,300億円(前年同期比9.4%増)、経常利益600億円(同27.7%)の期初予想を達成する見込みです。

### 【単体の中間期業績】

中間期の売上高は前年同期比11.6%増の1,807億円となりました。増収の要因は1)既存店売上高が前年同期比2.3%増とプラスに転じたこと、2)新規出店により直営店店舗数が26店舗の純増となったこと、の2点です。依然として天候次第で月次売上が左右される状況ですが、シーズンを通してみると前年水準並の売上を達成できる安定感が出てきました。すでに2003年8月期の下期から回復傾向にあった既存店の客数は、この中間期では同2.9%増とプラスになり、また、客単価も同0.6%減とほぼ下げ止まりました。

好調な売上を背景に粗利率は47.5%と前年同期比4.3ポイントの大幅改善を記録、さらに、販管費率も若干改善することができた結果、営業利益は396億円と前年同期比51.9%増の大幅増益となりました。

今中間期においては単体ベースで特別損失 31 億円を計上しました。内訳としては、食品子会社エファール・フーズ解散に伴う投資評価損が約 27 億円、その他店舗閉店関連損失など約 4 億円です。エファール・フーズは、先日の発表通り 2004 年 4 月末頃には営業を終了、今期中には解散となる見込みです。通信販売が計画規模に達せず、また、100 パーセント契約栽培の難しさを解消することができなかったこともあって黒字化へのメドが立たず、やむなく解散する決断となりました。こうした特別損失の計上はありましたが、中間の当期利益は 213 億円、前年同期比 88.6% 増となり、株主様への中間配当金は計画とおり 1 株あたり 50 円(配当性向 23.9%)を予定しております。

### 【単体の業績予想】

下期の売上高は 1,492 億円と前年同期比 6.8% 増を見込んでおります。前提となる既存店売上高はマイナス 1.3% の減収予想ですが、これは、消費税総額表示移行に伴う価格変更(実質値下げ)など下期の不透明な要因を踏まえ若干固めの見通しとしたものです。下期の出店数は純増で 21 店舗(オープン 38 店舗、閉店 17 店舗)となります。売上高総利益についても、消費税総額表示移行に伴う価格変更の影響を考慮し、期初計画の 46.0% をやや下回る 45.7% と予想しております。こうした結果、下期の経常利益は 203 億円(同 1.3% 減)と前年とほぼ同レベルの利益水準を見込んでおります。

2004 年 8 月期通期では、売上高 3,300 億円(前期比 6.4% 増)、経常利益 600 億円(同 27.7% 増)の期初予想を変えておらず、期末配当金についても期初計画通りの 50 円(年間配当 100 円、年間配当性向 31.8%)を予定しております。

### 【ユニクロ事業の今後の課題】

この中間期は、既存店売上高が前年並みを安定的に維持することができるようになり、また、粗利率も好調な売上や在庫コントロール精度の向上などに伴い大幅改善を実現することができました。商品面では、従来より強化してきたウィメンズ商品を更にレベルアップさせ、感度の高いニュース性のある新商品の投入などにより市場シェアの拡大を狙います。一方、ユニクロの中核となるメンズ商品では「本物のベーシック」を極めるべく、開発体制の拡充にも取り組んでおります。今後は、ユニクロの強みのひとつである素材を切り口に世界最高のサプライヤーとの共同開発なども進め、付加価値の高い商品づくりを目指していきます。先日発表をした、「カラダを科学した」新インナーや水着といった新分野にも積極的にチャレンジし続けていきます。また、商品力と同時に販売力の強化も進めます。社員 FC 制度本格稼働への準備を進めるほか、売り場と生産現場が密接に協働し、機会ロスを最小限に抑えてタイムリーに商品をお客様にお届けするための全社的な仕組みも構築していきます。

### 【連結決算】 2004 年 8 月期(通期)で経常利益 596 億円の計上を予定

今回、グループ会社が 4 社増加となりました。連結子会社は、2 月に子会社化を決めたナショナルスタンダード(71.8% 出資)のほか、グローバルリテイリングとグローバルインベストメントが加わり、合計 6 社となりました。また、Theory ブランドを日米で展開するリンク・ホールディングスは持分法適用関連会社となります。(いずれも PL 上は下期から業績への影響が出てきます)

2004 年 2 月中間期の連結決算では、売上高が 1,829 億円(前年同期比 10.6% 増)、営業利益が 392

億円(同69.2%増)、経常利益が391億円(同67.7%増)、当期利益が178億円(同50.1%増)と増収増益となりました。子会社別に業績の動向をみると、まず、英国事業を展開するユニクロ(U.K.)が売上高10億円、当期損益で4,000万円と黒字転換いたしました。一方、中国事業を展開するFRJSは売上高5億円で当期損益1億円の赤字でしたが、来期以降の黒字化に向けて着実に収益性が改善されてきています。解散を予定しているエフアール・フーズは当期損益で4億円の赤字となりました。

連結中間決算では特別損失61億円を計上しました。内訳はリンク・ホールディングス営業権等の一括償却(のれん代の償却)の48億円、エフアール・フーズ解散に伴う損失9億円がその主な内訳です。

2004年8月の下期には、ナショナルスタンダードが連結子会社として、リンク・ホールディングスも持分法適用関連会社として業績へ影響を及ぼす存在となります。これら新しいグループ会社も加わり、2004年8月期通期の連結業績は、売上高3,342億円(前年同期比9.4%増)、経常利益596億円(同43.4%増)、当期利益280億円(同33.8%増)をそれぞれ予想しております。

(注)IR情報(<http://www.fastretailing.co.jp/ir/index.html>)に決算データなどを開示しております。詳細についてはこちらをご確認ください。